ストライキ節

074349-000-5

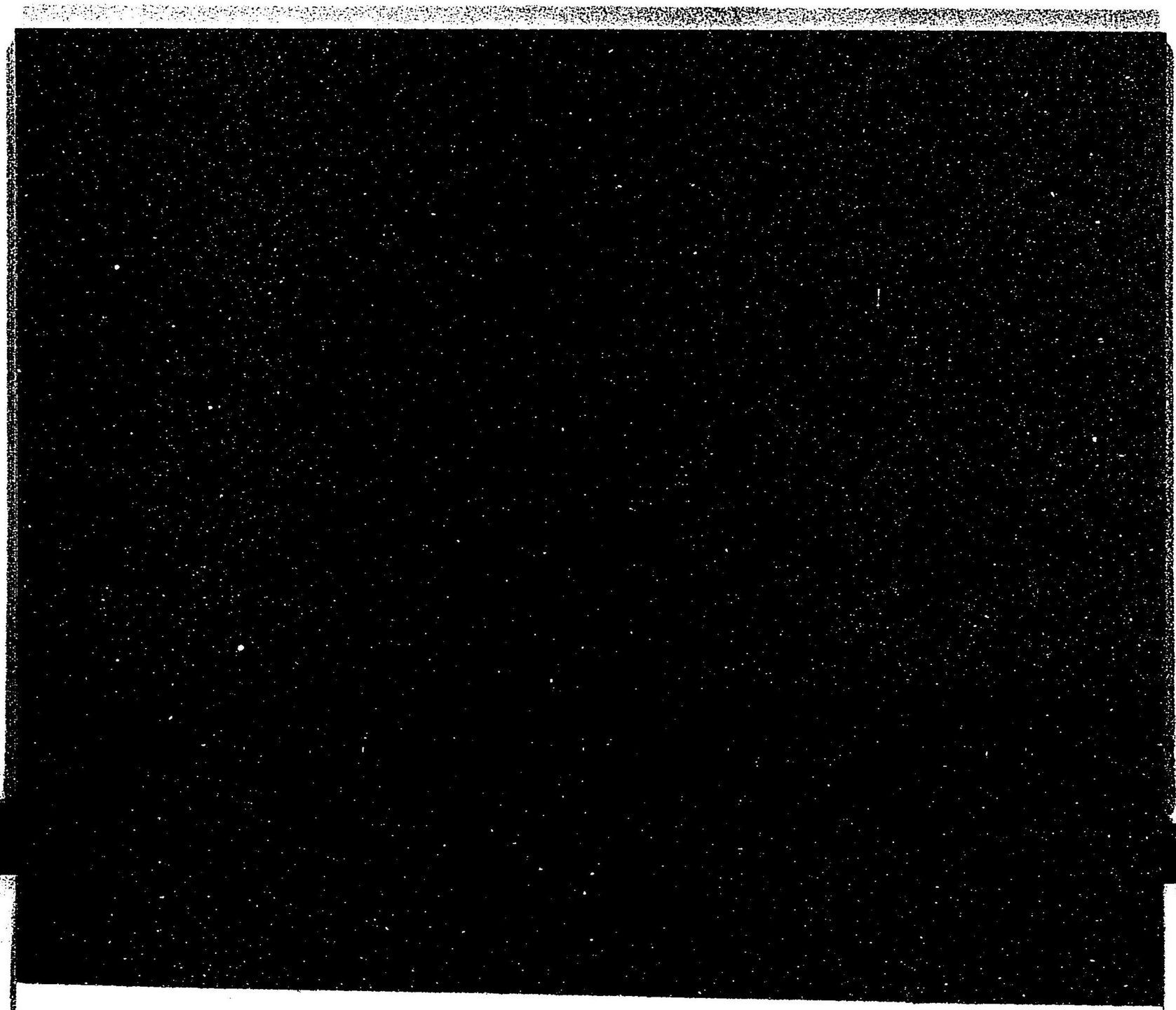
特53-345

ストライキ節

花の家主人／編

M32

CEI-1574



ストライキ節

特53
345

新版ストライキ節

花の家主人編

●羽織させかけ袂を控へ『別れが何んとしよ大時計『東雲のストライキさりとい辛いヲましたよ　てなこと仰有

●窶れ姿を見送る涙『別れが何んとしよ無事でと一聲格子先『東雲のストライキさりとい辛いヲたよ　てなこと仰有まし

●夢ならば覺めて呉るな暫しの間『別れが何んとしよ覺めて遇れる身でいない『東雲の明鴉さりとい辛らいヲ　てな

てと仰有ましたよ

●起すもわるいし寐かすもをしく『別れが何んとしよ　思案中塲に鷄の聲『東雲の明鴉さりとゝ辛い子　てなこと仰有ましたよ

●一夜遇ぬを怨むも道理『別れが何んとしよ　二度と一世に無い月日『東雲の明鴉さりとゝ辛い子　てなこと仰有ましたよ

●何と書たら逢れる事と『別れが何んとしよ　筆も思案もおく机『東雲の明鴉さりとゝ辛い子　てなこと仰有ましたよ

●人目憚りつれなく歸し『別れが何んとしよ　直と跡から迎へ文『東雲の明鴉さりとゝ辛い子　てなこと仰有ましたよ

●笑顔寫した鏡の外に『別れが何んとしよ　誰も知るまい今日の首尾『東雲の明鴉さりとゝ辛い子　てなこと仰有ましたよ

●平生やさしい心の主に『別れが何んとしよ　無理を云せる憎い酒『東雲の明鴉さりとゝ辛い子　てなこと仰有ましたよ

●花の盛を燕にゆづり『別れが何んとしよ　見捨てゝ故郷へかへる厂『東雲の明鴉さりとゝ辛い子　てなこと仰有ましたよ

(三)意氣な櫻の一枝よりも『別れが何んとしよ　じみな松葉の
末ながく『東雲の明鴉さりとい辛いヲ　てなこと仰有ま
したよ

(四)飯りよ見かへりや柳の芽よも『別れが何んとしよ　含む涙
の露の玉『東雲の明鴉さりとい辛いヲ　てなこと仰有ま
したよ

(一)其樣よやさしく云れて見ると『別れが何んとしよ　猶さら
返すかいやよなる『東雲の明鴉さりとい辛いヲ　てなこと
仰有ましたよ

(二)雪よ添寢の數〳〵つもり『別れが何んとしよ　重い身とな
る窓の竹『東雲の明鴉さりとい辛いヲ　てなこと仰有ま
したよ

(三)招く柳の姿よ迷ひ『別れが何んとしよ　笑ひ染めたる夏の
雨『東雲の明鴉さりとい辛いヲ　てなこと仰有ましたよ

(四)露よや夜毎よしつぱりぬれて『別れが何んとしよ　風よつ
れない女郎花『東雲の明鴉さりとい辛いヲ　てなこと仰有
ましたよ

(一)瀧の水岩よせかれて一度はきれて『別れが何んとしよ　末
い流れて又一つ『東雲の明鴉さりとい辛いヲ　てなこと仰
有ましたよ

●梅と契りてそのよい中を『別れが何んとしよ　雲が邪魔し
てかくす月　『東雲の明鴉さりとい辛いよ　てなこと仰有ま
したよ

●やさしくされ〳〵ばされるよ付て『別れが何んとしよ　どう
も苦労をますばかり『東雲の明鴉さりとい辛いよ　てなこ
と仰有ましたよ

●盬よならぬよコノ辻占も『別れが何んとしよ　憎くや思ひ
のうらが出る『東雲の明鴉さりとい辛いよ　てなこと仰有
ましたよ

●潮來出島の真菰の中に『別れが何んとしよ　あやめ咲くと
はしほらしい『東雲の明鴉さりとい辛いよ　てなこと仰有
ましたよ

●泣てくれるな途方よくれる『別れが何んとしよ　泣ちや利
も非も分やせぬ『東雲の明鴉さりとい辛いよ　てなこと仰
有ましたよ

●遇たさ見たさに飛たつ斗り『別れが何んとしよ　かごの鳥
かやうらめしい『東雲の明鴉さりとい辛いよ　てなこと仰
有ましたよ

●何をくよ〳〵川ばた柳『別れが何んとしよ　水のながれを
見てくらす『東雲の明鴉さりとい辛いよ　てなこと仰有ま

したよ

●主は三日月わしや時烏』『別れが何んとしよ　なかを隔てよふくも『東雲の明鴉さりとい辛いヲ　てなこと仰有ましたよ

●どうせ逢ぬとあきらめつけて『別れが何んとしよ　居れ必氣よなる鳥の影『東雲の明鴉さりとい辛いヲ　てなこと仰有ましたよ

●風の摸様ではふれて居ても『別れが何んとしよ　すへい結ばる糸やなき『東雲の明鴉さりとい辛いヲ　てなこと仰ましたよ

●待つこがれて悪いと知つて『別れが何んとしよ　出した手紙で苦勞する『東雲の明鴉さりとい辛いヲ　てなこと仰有ましたよ

●戀の闇夜はまよふたからい『別れが何んとしよ　さへた月さへ邪魔になる『東雲の明鴉さりとい辛いヲ　てなこと言有ましたよ

●曇りなき身ようたがひ掛て『別れが何んとしよ　ぬしいわたしを秋の月『東雲の明鴉さりとい辛いヲ　てなこと仰有ましたよ

●月落ち烏が啼かうとまし『別れが何んとしよ　歸しやせ

ぬぞへ今朝の霜』『東雲の明鴉さりとい辛いぞ』てなこと仰
有ましたよ
●寢ざめわびしきこの曉よ『別れが何んとしよ　雁のたより
もそらたのみ『東雲の明鴉さりとい辛いぞ　てなこと仰
有ましたよ
●雪のかん苦をやう〳〵しのぎ『別れが何んとしよ　梅も花
さく春よあふ『東雲の明鴉さりとい辛いぞ　てなこと仰有
ましたよ
●偽りいふたが誠となつて『別れが何んとしよ　まことといふ
たがあだとなる『東雲の明鴉さりさい辛いぞ　てなこと仰

有ましたよ
●無理よいぬきは外ではないが『別れが何んとしよ　先へこ
ろのまわり道『東雲の明鴉さりとい辛いぞ　てなこと仰
有ましたよ
●陽氣なさしきで逢たがはじめ『別れが何んとしよ　今いい
んきよ物思ひ『東雲の明鴉さりとい辛いぞ　てなこと仰有
ましたよ
●羽織たゝんでたんすへしまい『別れが何んとしよ　せめて
一夜の女房役『東雲の明鴉さりとい辛いぞ　てなこと仰有
ましたよ

●諦のつかぬ諦つけていいいれど『別れが何んとしよ　顔見りや末練で又迷ふ『東雲の明鴉さりとい辛い子　てなこと仰有ましたよ

●金のある人御客よさだめ『別れか何んとしよ　實のある人助夫よする『東雲の明鴉さりとい辛い子　てなこと仰有ましたよ

●暫しのわかれよ鳴海浴衣『別れが何んとしよ　未練なみだの玉しぼり『東雲の明鴉さりとい辛い子　てなこと仰有ましたよ

●一夜逢ぬをうらむも道理『別れが何んとしよ　二度と一世よない月日『東雲の明鴉さりとい辛い子　てなこと仰有ましたよ

●逢ねば逢ぬで苦勞よくらう『別れが何んとしよ　逢へば逢ふたで又た苦勞『東雲の明鴉さりとい辛い子　てなこと仰有ましたよ

●後は涙でくらそと儘よ『別れが何んとしよ　明日い笑顔でわかれたい『東雲の明鴉さりとい辛い子　てなこと仰有ましたよ

●つらや義理から笑顔をつくり『別れが何んとしよ　隱すなみだのうき勤め『東雲の明鴉さりいい辛い子　てなこと仰有ましたよ

●泣て待つ夜に更け行く鐘い『別れが何んとしよ　明の鳥よ
り猶つらい『東雲の明鴉さりとい辛いヲ　てなこと仰有ま
したよ

●惚れたい私しが重々わるい『別れが何んとしよ　可愛と云
たはぬしの罪『東雲の明鴉さりとい辛いヲ　てなこと仰有
ましたよ

●反古にしやんすな妾しの苦労『別れが何んとしよ　みんな
誰れ故お前ゆへ『東雲の明鴉さりとい辛いヲ　てなこと仰
有ましたよ

●とんとんと下る梯子の真中頃で『別れが何んとしよ　勉強

しやんせと目涙『東雲の明鴉さりとい辛いヲ　てなこと仰
有ましたよ

●遠ざかる程逢ひたいものを『別れが何んとしよ　去もの疎
しと誰が云た『東雲の明鴉さりとい辛いヲ　てなこと仰有
ましたよ

●意氣な妾よはれたい初手よ『別れが何んとしよ　深くなる
のい心いき『東雲の明鴉さりとい辛いヲ　てなこと仰有ま
したよ

●思ふ半分くちにいいへず『別れが何んとしよ　言る半分か
けぬふみ『東雲の明鴉さりとい辛いヲ　てなこと仰有まし

たよ

●雪いやめをも未だよ小ふゆ『別れが何んとしよ　積る思ひも
はれやせぬ『東雲の明鴉さりとい辛いヲ　てなこと仰有ま
したよ

●下駄の歯形よ未練をのこす『別れが何んとしよ　つらい別
の雪の朝『東雲の明鴉さりとい辛いヲ　てなこと仰有まし
たよ

●鳴な鶯暫の間『別れが何んとしよ　凌ぎや氣樂な花の世
に『東雲の明鴉さりとい辛いヲ　てなこと仰有ましたよ

●泣て血を吐く人こそ知らね『別れが何んとしよ　奥山住ひ
の時鳥『東雲の明鴉さりとい辛いヲ　てなこと仰有ました
よ

●仇な小意氣な姿に迷ひ『別れが何んとしよ　思ひ寐覺の夢
よまで『東雲の明鴉さりとい辛いヲ　てなこと仰有ました
よ

●わたしや初戀よある卵子『別れが何んとしよ　どうも歸
すが苦でならぬ『東雲の明鴉さりとい辛いヲ　てなこと仰
有ましたよ

●浮名たつ程思ひもまして『別れが何んとしよ　添はよいな
らない戀の意地『東雲の明鴉さりとい辛いヲ　てなこと仰

有ましたよ

●添る時節の來までおまち『別れが何んとしよ　それまで實
意のつくしくら『東雲の明鴉さりとい辛いヲ　てなこと仰
有ましたよ

●となり座敷の三筋の音は『別れが何んとしよ　心の迷ひか
ぬしの聲『東雲の明鴉さりとい辛いヲ　てなこと仰有まし
たよ

●契る百年八千代はおろか『別れが何んとしよ　ならば世界
の絶ゆる迄『東雲の明鴉さりさい辛いヲ　てなこと仰有ま
したよ

●ひくよひかれぬ身い捨撥の『別れが何んとしよ　義理よか
らまるゑんの糸『東雲の明鴉さりとい辛いヲ　てなこと仰
有ましたよ

●待よこぬやつとらすも程よ『別れが何んとしよ　少しやさ
つしも持がよい『東雲の明鴉さりとい辛いヲ　てなこと仰
有ましたよ

●飽られるのが仕舞の落よ『別れが何んとしよ　ぞうせ當座
の花だもの『東雲の明鴉さりとい辛いヲ　てなこと仰有ま
したよ

●親へ孝行世間へ義理も『別れが何んとしよ　たてしゑしも

見すてゝよ『東雲の明鴉さりとゝ辛いヲ　てなこと仰有ま
したよ

●京も田舎も支那西洋も『別れか何んとしよ　よわみのある
のゝ惚れた方『東雲の明鴉さりとゝ辛いヲ　てなこと仰有
ましたよ

●夜半の手枕ついそのまゝに『別れが何んとしよ　さめてぼ
んやり主の夢『東雲の明鴉さりとゝ辛いヲ　てなこと仰有
ましたよ

●義理と云ふ字いしみ〳〵つらい『別れが何んとしよ　逢ば
逃れる中なれど『東雲の明鴉さりとゝ辛いヲ　てなこと仰

有ましたよ

●晴てあふのゝ嬉しいけれど『別れが何んとしよ　秋の月と
ゝ氣よかゝる『東雲の明鴉さりとゝ辛いヲ　てなこと仰有
ましたよ

●妻子のあるとを承知で惚れて『別れが何んとしよ　末よや
手きれと出る積『東雲の明鴉さりとゝ辛いヲ　てなこと仰
有ましたよ

●色のめるのを初手から知ば『別れが何んとしよ　ぐちよみ
れんよ惚ゝせぬ『東雲の明鴉さりとゝ辛いヲ　てなこと仰
有ましたよ

●此處で添れよや手を引き合て『別れが何んとしよ　儘よ旅
路のきんと笠』『東雲の明鴉さりとい辛いヲ　てなこと仰有
ましたよ
●主の浮氣を聞たび毎に『別れが何んとしよ　癪にふとりて
身いやせる』『東雲の明鴉さりとい辛いヲ　てなこと仰有ま
したよ
●お着せ申した羽織の襟を『別れが何んとしよ　返すもつら
ひよ今朝の雨』『東雲の明鴉さりとい辛いヲ　てなこと仰有
ましたよ
●勿体ないとハイしながら『別れが何んとしよ　無理な

願ひの神頼み『東雲の明鴉さりとい辛いヲ　てなこと仰有
ましたよ
●とめたい思ひが天まで届き『別れが何んとしよ　ぬしを歸
さぬ今朝のあめ』『東雲の明鴉さりとい辛いヲ　てなこと仰
有ましたよ
●逢い互ひよ涙の種と『別れが何んとしよ　思へど逢いずよ
居られない』『東雲の明鴉さりとい辛いヲ　てなこと仰有ま
したよ
●硯取り出し寫眞をながめ『別れが何んとしよ　落るなみだ
で墨をする』『東雲の明鴉さりとい辛いヲ　てなこと仰有ま

したよ

●顔に紅葉をほんのり見せて『別れが何んとしよ　秋を松葉のしほらしさ』東雲の明鴉さりとハ辛いネ　てなこと仰有ましたよ

●逢ふたら云ふと思ふた事も『別れが何んとしよ　嬉しまぎれよどう忘れ』東雲の明鴉さりとハ辛いネ　てなこと仰有ましたよ

●結にいハれず解くにもとけず『別れが何んとしよ　心千すじの乱れがみ』東雲の明鴉さりとハ辛いネ　てなこと仰有ましたよ

●云つて見よふかいわすよをこか『別れが何んとしよ　娘思案のたばね髪』東雲の明鴉さりとハ辛いネ　てなこと仰有ましたよ

●意見の意の字を分析すれば『別れが何んとしよ　義理を立よといふこゝろ』東雲の明鴉さりとハ辛いネ　てなこと仰有ましたよ

●いつそきれたら苦労ハないと『別れが何んとしよ　云ふハ迷ハぬ先きの事』東雲の明鴉さりとハ辛いネ　てなこと仰有ましたよ

●君よ粟津のつれない戀路『別れが何んとしよ　わたしや堅

田の片おもひ『東雲の明鴉さりとい辛いヲ　てなこと仰有ましたよ

●鐘よ恨やからすよ愚痴を『別れが何んとしよ　言のを昔よして見たい『東雲の明鴉さりとい辛いヲ　てなこと仰有ましたよ

●惚たが私しの因果とさとりや『別れが何んとしよ　主の水性も苦よやならぬ『東雲の明鴉さりとい辛いヲ　てなこと仰有ましたよ

●二世を堅めたお前のまへで『別れが何んとしよ　きれて氣よなる三の糸『東雲の明鴉さりとい辛いヲ　てなこと仰有

ましたよ

●逢たい見たいの思ひが届きや『別れが何んとしよ　又たも二人で暮したい『東雲の明鴉さりとい辛いヲ　てなこと仰有ましたよ

●うちを案じてかへれといへど『別れが何んとしよ　どうぞとめたる胸の中『東雲の明鴉さりとい辛いヲ　てなこと仰有ましたよ

●手不持沙汰でいなした譯い『別れが何んとしよ　しげき人目を分け隔て『東雲明鴉さりとい辛いヲ　てなこと仰有ましたよ

●かねや鳥いきてへるくせよ『別れが何んとしよ　主い聞へ

ぬ無理ばかり『東雲の明鴉さりとい辛いヲ　てなこと仰有ましたよ

●くやしいながらも様子も聞けば『別れが何んとしよ　主の方よも無理いない『東雲の明鴉さりとい辛いヲ　てなこと仰有ましたよ

●ぬしの秋風我見よ染みて『別れが何んとしよ　晴れる月夜よくもるよひ『東雲の明鴉さりとい辛いヲ　てなこと仰有ましたよ

●文じやわからぬしみ〳〵遂ふて『別れが何んとしよ　眞實聞たい主の胸『東雲の明鴉さりとい辛いヲ　てなこと仰有

ましたよ

●主を待つ夜い我さし櫛の『別れが何んとしよ　胸をなせたりさすつたり『東雲の明鴉さりとい辛いヲ　てなこと仰有ましたよ

●はぢのよい言きかせておいて『別れが何んとしよ　あとい沙汰なき時鳥『東雲の明鴉さりとい辛いヲ　てそこと仰有ましたよ

●怖い危い首尾してよんで『別れが何んとしよ　何んで夜中よ歸さりやう『東雲の明鴉さりとい辛いヲ　てなこと仰有ましたよ

●はなの色香は浮れてはツと『別れが何んとしよ　わたしや
胡蝶の夢ごゝろ『東雲の明鴉さりとい辛いヲ　てなこと仰
有ましたよ
○はやく寢よとのうれしい聲を『別れか何んとしよ　あけよ
さし引ときの鐘『東雲の明鴉さりとい辛いヲ　てなこと仰
有ましたよ
●晴て過のい嬉しいけれど『別れが何んとしよ　秋の月とい
氣にかゝる『東雲の明鴉さりとい辛いヲ　てなこと仰ま
したよ
●腹に實の無い瓢箪さへも『別れが何んとしよ　胸にくゝり
つけて居る『東雲の明鴉さりとい辛いヲ　てなこと仰有
ましたよ
●愛想ずかしもお前のためと『別れが何んとしよ　明ていい
れぬ胸のうち『東雲の明鴉さりとい辛いヲ　てなこと仰有
ましたよ
●過て嬉しい思ひもいつか『別れが何んとしよ　朝よや涙の
たねとなる『東雲の明鴉さりとい辛いヲ　てなこと仰有ま
したよ

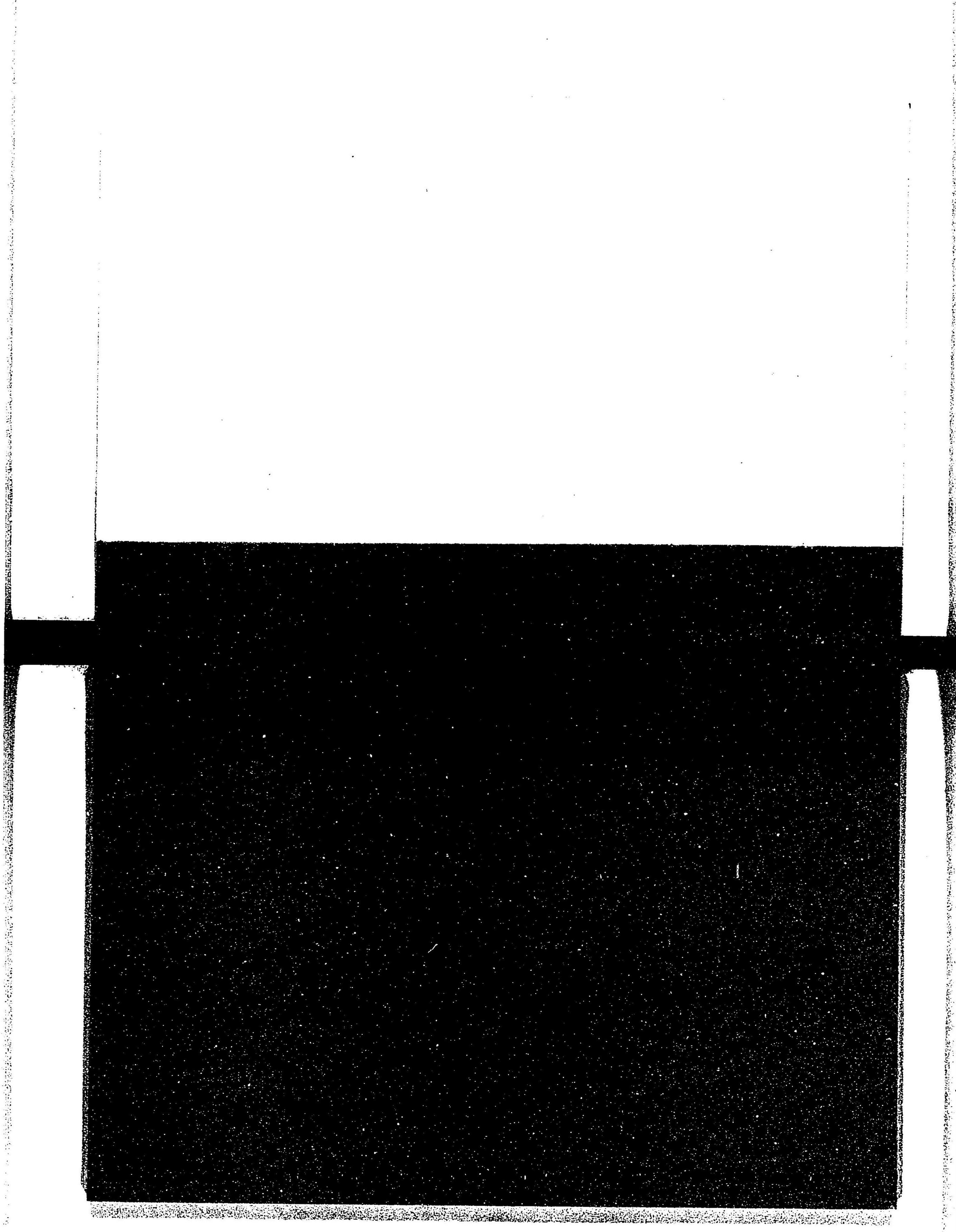
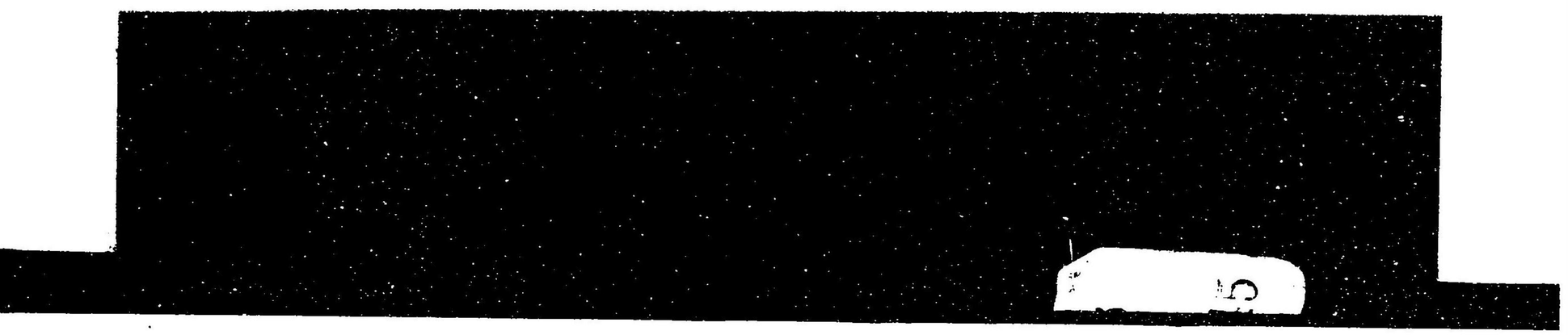
新版ストライキ節　終

T-30

明治卅三年十二月十日印刷
明治卅三年十二月十日發行

編輯兼發行者　神田區猿樂町二丁目四番地　大高榮

印刷者　神田區猿樂町二丁目二番地　上村龍之助

發賣所　日本橋區葺屋町一番地　今古堂書店
　　日本橋區綱売町一丁目九番地　自省堂

全